

黒沼 貞志選

今までは目にも止まらぬ野の草の春先まづ咲
きてハルジオンと知る 三浦 弥生

商品のごとくわが腕のバーコードデータ読
み込む美人看護師 三笠喜美夫

「孫の手」を背より取り出す幼な児の手さ
ながらに孫の手入るる 宮澤 勝男

葉桜のみどり映して城濠の水面はみどり吹
く風みどり 村越 勝子

夏衣かろきを肩にかけるときふはり漂ふ「
誰が袖」の香 山口 園枝

緑濃き葉群れの中に咲く沙羅の朝光受けて
白きが極まる 渡辺恵美子

つい生前の京子先生にやましん歌壇で
選んでいただいた己が詠草と類似する

対象「沙羅」の詠草に目が止まる。緑、
朝光、白きなどの色彩が効果的。

父と母逝きにし五月春はるか光のかぎろひの向か
う憶ひ出ゆらゆら 秋保 嘉子

裸足のまま「けんけんば」と遊びし日土の
匂ひの今も懐かし 伊藤 良子

電球の傘を黒布で覆ひたる戦禍の中の微か
な記憶 猪俣 きぬ

星空に明るく全けきスーパームーン戦地も
あまねく照らしておらん 今井喜代